

くすりのしおり

610443018

2010年3月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：ネオーラル 10mg カプセル [自己免疫疾患用]

主成分：シクロスポリン（Ciclosporin）

剤形：帯黄白色のカプセル剤、長径 8.9mm、短径 6.7mm

シート記載：Neoral 10mg、ネオーラル 10mg カプセル

**この薬の作用と効果について**

リンパ球に特異的・可逆的な免疫抑制作用を示し、主にヘルパーT細胞の活性化を抑え、異常な免疫反応を抑えます。

通常、眼症状のあるベーチェット病、乾せん、再生不良性貧血、赤芽球ろう、ネフローゼ症候群、重症筋無力症、アトピー性皮膚炎の治療に使用されます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。神経ベーチェット病、腎機能障害、感染症、悪性腫瘍またはその既往歴がある。活動性単純ヘルペス感染のあるアトピー性皮膚炎がある。
- ・ 妊娠または授乳中
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ **あなたの用法・用量は** ：医療担当者記入
 - ・ **ベーチェット病**：通常、1回体重あたり主成分として 2.5mg/kg（体重 50kg で 125mg）を 1日 2回服用し、徐々に減量して維持量は 1回 1.5～2.5mg/kg（体重 50kg で 75～125mg）を 1日 2回服用します。
 - ・ **乾せん**：通常、1回体重あたり主成分として 2.5mg/kg（体重 50kg で 125mg）を 1日 2回服用し、徐々に減量して維持量は 1回 1.5mg/kg（体重 50kg で 75mg）を 1日 2回服用します。
 - ・ **再生不良性貧血、赤芽球ろう**：通常、1回体重あたり主成分として 3mg/kg（体重 50kg で 150mg）を 1日 2回服用します。
 - ・ **頻回再発型ネフローゼ症候群**：通常、成人は 1回体重あたり主成分として 0.75mg/kg（体重 50kg で 37.5mg）、小児は 1回 1.25mg/kg（体重 20kg で 25mg）を 1日 2回服用します。
 - ・ **ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群**：通常、成人は 1回体重あたり主成分として 1.5mg/kg（体重 50kg で 75mg）、小児は 1回 2.5mg/kg（体重 20kg で 50mg）を 1日 2回服用します。
 - ・ **全身型重症筋無力症**：通常、1回体重あたり主成分として 2.5mg/kg（体重 50kg で 125mg）を 1日 2回服用します。効果がみられたら徐々に減量して、維持量は 1回 1.5mg/kg（体重 50kg で 150mg）を 1日 2回服用します。
 - ・ **アトピー性皮膚炎**：通常、成人は 1回体重あたり主成分として 1.5mg/kg（体重 50kg で 75mg）を 1日 2回服用します。症状により適宜増減されますが、1回 2.5mg/kg（体重 50kg で 125mg）を超えることはありません。
- この薬は 1カプセル中に主成分 10mg を含みますが、含有量が異なるカプセルと組み合わせて服用することもあります。治療を受ける疾患や症状により適宜増減されます。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ 飲み忘れた場合は、気がついたときにできるだけ早く 1回分を飲んでください。ただし、次に服用する時間は 5時間以上間隔をあけてください。絶対に 2回分を一度に飲んではいけません。
 - ・ 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
 - ・ 医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めたり、この薬のかわりにサンディミュンを飲んだりしないでください。

※次ページも必ずお読みください。

生活上の注意

- ・ 免疫が抑えられて感染しやすくなるおそれがありますので、まめに手を洗ったり、うがい、歯みがきをして清潔に心がけてください。
- ・ 予防接種を受ける場合には、医師または薬剤師に相談してください。
- ・ グレープフルーツジュースはこの薬の血中濃度を上げ薬の作用を強くさせること、セイヨウオトギリソウを含む健康食品はこの薬の血中濃度を下げ薬の作用を弱くさせることが知られていますので、これらの食品の飲食は避けてください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、腎機能障害（尿量減少、浮腫）、肝機能障害（倦怠感、手や白目が黄色くなる）、毛包炎、鼻咽頭炎、吐き気、多毛、振戦（手足の震え）、頭痛、めまい、歯肉肥厚、高血圧、熱感、発疹などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ けいれん、意識障害、視覚障害 [可逆性後白質脳症症候群、高血圧性脳症などの中枢神経系障害]
- ・ 上腹部の激痛、発熱、吐き気 [急性膵炎]
- ・ 出血傾向、倦怠感、浮腫 [溶血性尿毒症症候群、血栓性血小板減少性紫斑病、溶血性貧血、血小板減少]
- ・ 筋肉痛・こわばり、脱力感 [横紋筋融解症]
- ・ リンパ節腫脹、発熱、食欲不振 [悪性リンパ腫、リンパ増殖性疾患、悪性腫瘍（特に皮膚）]
- ・ 呼吸困難 [クリーゼ]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。服用直前まで、PTP包装のまま保管してください。
- ・ 薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄については受け取った薬局に相談してください。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。